



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

2002年4月7日(日)
 14年度定期総会
 午前9時半より
 千葉市生涯学習センターにて
 午後から千葉市街の史跡見学会



お知らせ

4月27日(土)

見学調査

千葉寺十善講の道を歩く

(花島観音～高津新田)

- ◇ 午前9時
- ◇ 八千代台改札口集合

5月19日(日)

例会 調査打合せ

「本年度の展示発表内容について」

- ◇ 午後1時より
- ◇ 八千代市郷土博物館

6月8日(土)～9日(日)

一泊バス見学会

- ◇ 上州三国街道須川宿～猿ヶ京関所～沼田城～川場村吉祥寺・その他
- ◇ **午前6時50分：勝田台駅北口集合**
- ◇ 会費：35000円を予定
- ◇ 5月例会時までにご予約ください(予約金1万円)

◇ **活動報告**

1月6日(日)

日本橋七福神巡りと史跡を訪ねて

酒井 正男

21世紀2年目の2002年壬午が明けた中、1月の例会は日本橋七福神巡りとなる。6日に総勢32名の参加者を得て行われた。

七福神への信仰は室町時代に始まったといわれ、500年の昔より人々に受け継がれている。日本橋七福神は他所と異なり全て神社で占められている。地下鉄日本橋に集合し10時すぎ最初の目的地へ。

日本橋は家康により五街道の起点と定められた所で、橋のほとりに「日本橋魚市場発祥の地」碑、高速道路の架設に伴い移設された「東京市道路元標」とレプリカの「日本国道路元標」や、「高札場」が設けられている。次に「一石橋」へ。橋のほとりに「迷子しらせ石標」が残っている。

外堀通り際「常盤橋門跡」に立寄り次へ。「日本銀行貨幣博物館」見学、日本の古代

からの貨幣の歴史などの展示と「ユーロ」の紙幣・硬貨の企画展が同時開催されていた。さらに本町通りへと進み、いよいよ最初の七福神詣へ。

(1)宝田恵比寿神社(恵比寿)は商業の守護神として江戸の商人の信仰をうけていた。「べったら市」も大勢の人々で賑やかである。途中「旧日光街道本通り」の記念碑がある。今や表通りではなく裏通りになっている。

(2)梶森神社(恵比寿)は商人の街に相応しく、いま一つの恵比寿様がここに祀られている。江戸時代には新橋の烏森と深川の雀の森とともに江戸三森といわれた。境内の富塚碑を拝み次へ。家康の痘瘡を治した医師の岡本玄治の屋敷跡に史跡玄治店の石碑が建っている。

(3)小網神社(福祿寿、弁財天)は「輪くぐりの神事」、「どぶろく祭り」は奇祭として有名で、この日お守りにスキの「みみずく」を売っている。銀杏八幡宮を左に見て次へ。

(4) 茶の木神社(布袋尊)は周囲に巡らされた茶の木の緑が見事でこの名が付いたとか。佐倉藩主の守護神で屋敷内、町内にも火災が無かったことで「火伏せの神」ともいわれている。



(5)水天宮(弁財天)は現在、安産のご利益ある神社として有名。江戸っ子に「情けありまの水天宮」という洒落言葉が流行るほど参詣人が多かった。当日は戌の日のため安産祈願の参詣とで参拝制限されるほどであった。

(6)松島神社(大黒天)は往古この辺りは砂洲で松の茂る島にあった祠なので俗に松島稲荷といったのが始まりで、この地が町屋になった時に稲荷をとり松島町と名付けられたとか。

遅い昼食となったが下町情緒あふれる明治大正の雰囲気の色濃く残す落ち着いた商店街へと繰り出し銘々楽しい一時を過ごした。

(7)末広神社(毘沙門天)は明暦の大火で葎原の移転後は地元の産土神として信仰されている。

(8)笠間稲荷神社(寿老人)は産土神常陸笠間稲荷の東京別社。五穀を始め水産、殖産の守護神として信仰されている。これで念願の七福神巡りは無事に成就することができた。



両国をめざして出発、途中「薬研堀不動院」「順天堂発祥の地」を後に靖国通りへ。「両国広小路記念碑」に立寄り両国橋を渡る。橋の東詰の小公園に大高源吾の「日の恩や たちまちくたく厚氷」の句碑が建っている。回向院へ。

回向院は明暦の振袖火事で多くの焼死者を埋葬し回向したのが始めといわれ、その後無数の不幸な人々を葬っている。境内には「海難供養碑」が6基、多数の力士の碑やねずみ小僧の墓も祀られている。小菅さんのお兄さんのご配慮で本尊の銅造阿弥陀如来の座像を拝観できた。また戦前の国技館はこの境内にあった。最後の目的地へ。

江戸東京博物館は高床式倉庫をイメージした斬新な建物で、まず復元された日本橋を渡り、江戸・東京の雰囲気を色濃く残す館内をくまなく見学し、これで計画された全行程が終了。

現代の日本橋からスタートし、江戸時代の日本橋でゴールした一日であった。

今回は、案内者の小菅さんの周到な準備による綿密で膨大な資料を初めとし、適地な案内と説明に感謝してやまない。

なお原稿のとりまとめにあたり当資料より随所に引用させて貰い、あわせて大変ありがとうございました。

2月17日(日)
2月例会報告
事務局(牧野)

- ・市郷土博物館学習室にて
- ・参加者 会員 19名
会員外 2名 計 21名

1 「古文書学習」

牧野事務局長作成の資料との指導で、古文書解読の学習を行いました

古文書の資料は「西国道中記」で、下総国海上郡大間手村(現在の千葉県海上町)の服部家文書。

大間手村は、旧樺の海地域にできた村。名主家の跡継ぎ(治右衛門)が22才のとき、同行23人西国巡りをしたときの記録。

年代は文化八末年(1811)六月朔日から八月二十三日までの道中記です。

この中から「旅立ちから江戸を経て東海道を西に向かい、大磯から富士山に向かい登頂を果たして東海道に戻り、秋葉山に参詣するところまで」を学習しました。

添付資料として、伝馬朱印状、行徳舟と江戸小網町の行徳河岸の資料を読み、江戸名所図会から行徳河岸、小名木川、五百羅漢寺の様子を概観し、五街道中細見案内で日本橋から平塚まで迎ってみました。

2 会長より吉橋貞福寺蔵の「大般若波羅蜜多經」の実物紹介と解説がありました。この經典は宝永三丙戌歳(1706)五月廿一日奉納されたものです。

3 新木戸のGSに設置する「血流地藏道」道標の説明板の文案の検討を行いました。(内容は総会で提示します)

高津と高津新田の
オビシャを見学
わらび ゆみ

➤ 1月20日
高津比咩神社
ハツカビシャ

石井さんのご紹介で、増田さんと3人で、高津比咩神社のオビシャを見学させていただいた。

午後1時前、「甲乙ム」の字を書いた大きなのが神社の鳥居のところには立てられ、神主さんや地区役員も集まって準備はOK。

神主の司式により御被いと玉串奉奠の祭儀が厳粛に執り行われ、続いて神主と氏子により弓神事が始まった。

社殿の中から射られる矢はけっこう威力があり、的に当たると、ワーッと歓声があがり、競って矢を拾う。

次に社殿の中で「オトウウケトリ」の式。新旧当番が差し向かいで杯を交わした後、オトウ（当番の名を書いた紙を代々かぶせたご神体）を新当番が受け取る。

続いて、念仏講のご婦人方により「ハナミ」という祝いの歌が謡われ、隣接の公民館に移動して、ナオライに移る。

以前よりは簡素化したというが、伝統を重んじ厳粛に伝えていこうという意欲は、今もなかなかのものであった。



➤ 2月11日
高津新田諏訪神社
カラスビシャ

会長以下総勢8名、午前8時半に八千代台駅に集合、高津新田諏訪神社にむかう。

平野寿子さんの紹介で、総代の大木氏に挨拶の後、カラスの的を射る弓神事に参加させていただいた。

だれが何回射ってもよく、氏子の皆さんに続いて、会員も飛び入りで弓を引かせていただく。（うまく射るのは、案外と難しいと実感した様子？）

和やかに弓神事が終わってから、高津新田西公会堂に移動、「オトウワタシ」を見学させていただく。

神殿に奉げた御神酒（杉の束で栓がしてある）を新旧当番に注ぎ、「ご苦労様」「次はよろしく」と新旧当番で挨拶。続いて半切りの大根に塩をつけ、互いの頭に擦り付ける。

（お清めの儀式とか？）

さてオトウワタシだが、これはなんと、旧当番が新当番の背中に名簿を書いた紙を差し込むのだ。ナオライで酔って大事な名簿をなくさないためらしい。

続いてナオライとなるが、午前中のここまでの儀式は男性のオビシャで、午後からは女性の「オンナビシャ」が行われるとのことであった。

2日間ともよい天気恵まれ、興味深い民俗行事を拝見でき、また2つのオビシャを比較して、その本質をつかむことができたように思いました。

こころよく見学をさせていただいた地元の皆様に感謝します。

高津地区における
大師信仰の不思議

村上昭彦

高津及び高津新田の大師信仰について、気がついたことをいくつか挙げてみました。

吉橋大師講開設当初の10番

今まで吉橋大師講10番札所は開設当初からずっと高津観音寺だと信じられてきましたが、観音寺山門前のC04道標と高根観行院の奉納絵馬から開設当初の10番札所は、現在廃寺の正福寺ということが判明しました。

しかしなぜ正福寺に10番札所が設置されたのでしょうか？正福寺の本寺である宇那谷大聖寺には千葉寺十善講の札所が設置されています。

私は本寺が千葉寺十善講、末寺が吉橋大師講ということにちょっと疑問を感じるのですが...

高津観音堂の大師講顕彰碑

高津観音堂にはいくつか大師講関連の顕彰碑があります。観音堂には吉橋大師講の札所が設置されています。なのにここにある顕彰碑は吉橋大師講のものではありません。

手元に資料がないのでおぼろげですが、顕彰碑によると大師講の活動めざましく、相馬大師の世話人が視察にくるなど地元の大師講独自の活動を展開していたようです。

高津新田公会堂の大師堂

先日の高津新田散策の際、目に留まりました。扉にはカギがかけられ、開くことはできませんでしたが、外目から千葉寺十善講の納札とご詠歌の額？

を確認することができました。

資料によると現在、高津新田に千葉寺十善講の札所はありません。おそらく千葉寺十善講も札所の移行、移設を繰り返し、ここ高津新田の大師堂にもかつて札所が設置されていたのでしょう。いつ何番札所が設置されたかは、ご詠歌の額がそれを解くカギになると思います。



高津～勝田の大師廻り

たまたま高津新田公会堂の大師堂のお花とお水を取り換えにきたおばあさんのお話から、現在も勝田～高津間で大師廻りが行われていることがわかりました。現在、「八千代市の歴史」にある大師廻りは吉橋大師講と千葉寺十善講、その小廻りの井野大師であり、ここで高津～勝田間の大師廻りの概要をつかむことが出来れば、未発表の大師廻りとなります。

この大師廻りは大師堂内の納札から千葉十善講の小廻りと考えられますが、高津観音堂の顕彰碑からわかるように地元独自の大師廻りを形成したとも考えられます。

高津観音寺 88 番札所

高津観音寺 10 番札所の右隣にもう一つ祠があります。うっすらとですが、右の柱に打ち付けられている木の札に「八十八ヶ所本尊」と読むことができます。

吉橋大師講、千葉寺十善講ともに観音寺に 88 番札所設置の記録はありません。が、もし高津～勝田の大師廻りに関連のある札所であればおもしろいことになるのですが...

コラム

思案橋について

牧野光男

「思案橋」というと何を連想するでしょうか。歌謡曲にも出てきて比較的馴染みのある言葉のようで、人それぞれの想いがあるでしょう。

「思案橋」を『広辞苑』で見ると「渡るのに躊躇すると伝えられる橋」とあります。

茨城県猿島郡総和町下辺見の旧関宿道に「静御前の思案橋」という伝説を持つ橋があった。(現在の新道は国道でコンクリートの立派になった橋の名も「思案橋」で、その傍らに説明板がある)

『利根川図志・第二巻』にその事がのっている。それによれば、「静義経の跡を慕いこの所に来り、奥州へ行かんや止めむやと、思案せし所なりといひ伝ふ」とあり、静は旅の疲れから「思はずも定めなき世と諸共に、野辺の露と消え給ふ。」侍女の琴柱(ことじ)は静を高柳寺に葬りその持ち物を当寺に納めたという。

その場所はJR東北線栗橋駅の近くであるが、現在寺は移転して旧寺域の片隅に「静御前の墓」があり、町では説明板を立てて宣伝している。

江戸の川柳に「どの道に帰る思案の橋でなし」というのがあって、東堀留川にかかっていた橋の名が「思案橋」。

その昔、橋を渡った先には遊郭があり、芝居街があり、どこにしようか？家に帰るのは思案の外ということだそうで、(『江戸の下水』青蛙房)思案するのも様々というところでしょうか。

3月17日

飛ノ台史跡公園博物館
見学会

晴天に恵まれ、20名が参加し成功裏に終了しました。

この詳細な報告については、次号に掲載します。

国立歴博企画展へのお誘い

3/19～6/9

古代日本文字のある風景

当会の、蕨・小菅・畠山隆・佐野会員が、会場内体験コーナーでボランティアをしています。

4/13午後は、蕨・小菅が当番で会場にありますので、どうぞ来場ください。

新入会員紹介

浦川 寿美子

八千代市村上団地3丁目

湯川 義隆

八千代市村上

中山 基和

習志野市本大久保3丁目

真田 信行

習志野市藤崎

長 兼史郎

八千代市ゆりのき台

編集後記

皆様からの原稿の形態は、フロッピー・メール・手書き・ワープロでも紙で、などいろいろです。

今回も畠山さん・関和さんに入力を、増田さんに印刷・発送のお手伝いをいただくなど、多くの方のご協力で発行に至りました。

ご一読後、捨てずにファイルしていただけたら幸いです。

(By ゆみ)

sawarabi-y@nifty.com